

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

スズキにかけた経営者人生「51勝49敗」(鈴木修スズキ会長) 佃 義夫 (佃モビリティ総研代表)

- 約半世紀にわたってスズキをけん引してきたカリスマ経営者、鈴木修・スズキ会長が6月25日の株主総会で代表取締役会長を退任し、経営の第一線から身を引く。「49の失敗と51の成功で51勝49敗だな」。鈴木修会長は、スズキに懸けた経営者人生を51勝49敗と自己採点した。
- 1978年の社長就任時の売り上げは約3200億円と弱小メーカーの域を出なかったが、その手腕によって現在では3兆円規模のグローバル企業に飛躍した。独自の鈴木修流経営により、激動の自動車業界を勝ち抜いてきたスズキの「中興の祖」である。だが、本人の弁は「いろいろ失敗をしたから、成功した」。失敗から学んでチャレンジする。それこそが、鈴木修流経営の真髄だ。
- その代表例が、世界戦略と企業提携だろう。スズキは世界戦略として、1983年にインドで政府との合弁企業を立ち上げた。現在のインドのモディ首相と鈴木修会長はじっこの仲であり、いまやインド政府のスズキへの信頼は厚いものがある。「モディさんから、こちら(インド)に移り住まないかと真剣に言われているんだ」と朗らかに言う。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2021年6月12日号)

幹部への活きた言葉

積み重ね積み重ねても、また積み重ね

- 「積み重ね 積み重ねても また積み重ね」。耐震構造理論の生みの親と言われる内藤多仲(1886~1970)の言葉である。昭和29年から33年にかけて、名古屋テレビ塔(180m)。大阪通天閣(100m)、東京タワー(333m)の建設に携わり、「日本の耐震建築の創始者」とうたわれた人である。一回では不十分。三回繰り返すことで、積み重ねるといふ言葉が真の威力を発揮する。
- 坂村真民さんの詩「つみかさね」を紹介する。
一球一球のつみかさね 一打一打のつみかさね
一步一步のつみかさね
一坐一坐のつみかさね 一作一作のつみかさね
一念一念のつみかさね
つみかさねの上に 咲く花 つみかさねの果てに
熟する実 それは美しく尊く 真の光を放つ

(参考:「致知」:2021年8月号)

経営者のための危機管理

低コスト諸国からの調達時代は終わる 上原修 (日本サプライマネジメント協会 名誉理事長)

- 世の中は、グローバル調達から、リスク調達へ変わってきている。低コスト諸国からの資材調達に走っていた時代は終わり、持続可能性を基盤とする新たなマインドセットが必要となった。今までと同じ意識で経済を動かすのではなく、SDGsの17目標を中核に捉え、そこへ効率化と柔軟性を取り組んでいくサプライチェーンマネジメントが求められる。
- 日本の企業は、多様性、人権、安全衛生と口では発信するものの、実態は世界に追いついていない。その一方で、社外のステークホルダーたちが、企業統治に対する監視を強めていることを忘れてはいけない。これまでの商習慣やシステム、ガラバゴス化した価値観を見直し新しいサプライチェーンマネジメントを考える必要がある。(参考:「日経ビジネス」2021年6月7日号)

古典に学ぶ

商業の機密性について

(解説) 元来商業は政治などに比較すれば、かえって機密などをいうことなしに経営して行けるはずのものであろう。ただ銀行においては事業の性質として幾分秘密を守らねばならぬことがある。例えば誰に何程の貸付があるとか、徳義上これを秘密にして置かねばならぬことであろう。

(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)